

学校における交通安全教育は、自他の生命の尊重という基本理念に立って、身近な交通環境における様々な危険に気付いて的確な判断のもとに安全に行動できる態度や能力を養うとともに、交通社会の一員として、その責任を自覚し、自己の安全のみならず他の人々や社会の安全に貢献できる健全な社会人を育成することを目指して、学校の教育活動の全体を通じて行うこととされています。

このため、交通安全教育は、安全教育の一環として、生徒の意識や行動の実態及び地域の実情に応じて、その目標、月ごとの重点、学年ごとの指導時間、指導内容等を定めた年間計画を作成し、これに基づいて計画的、組織的に指導を展開することが望まれています。

このような指導の考え方や進め方については、「生きる力をはぐくむ学校での安全教育」(文部科学省 平成13年11月)、「交通安全教育の新たな展開」((財)日本交通安全教育普及協会 平成12年3月)及び「みんなで実践 交通安全高校生用」((財)日本交通安全教育普及協会 平成15年3月)などによって、指導や学習のための具体的な手掛かりが公刊され、広く活用されているところです。

しかし、特別活動のホームルーム活動における交通安全指導(Traffic Safety Guidance)は、「(2)個人及び社会の一員としての在り方生き方、健康や安全に関することのイ、心身の健康と健全な生活態度や習慣の確立、生命尊重と安全な生活態度や習慣の確立など」(高等学校学習指導要領)の内容として取り扱われることから、年間計画に基づいて行う計画的な指導のほかに、日常生活の中で随時生起する交通安全の問題や課題についての指導を行う必要があり、指導の内容や方法も多岐に及ぶことが考えられます。したがって、このような指導上の課題にも適切に対応できるような指導資料を望む現場からの声も少なくないようです。

この高校教師用参考資料「Safety Action 21 高校生の交通安全教育」は、ホームルームを担当する先生方のために企画されたものであり、随時生起する問題や課題だけでなく計画的な指導にも活用できるよう作成されたものです。何よりも資料が豊富に盛り込まれ、生徒や地域の実情に即した創意ある指導に役立つものと確信しています。

本書が、広く高校の現場に活用され、当面の交通事故防止だけでなく、人格の完成を目指す高等学校教育の充実に貢献し、生涯を通じる安全の確かな基礎が培われるよう心から念願する次第です。

平成16年7月
交通安全教育推進委員会
委員長 吉田 瑩一郎